

那須御用邸は、1923年に当時皇太子であった昭和天皇（1901～1989）がこの地域を訪問され、天皇即位後間もない1926年に完成した。1924年に皇太子殿下がご成婚された後に建てられた最初の御用邸である。昭和天皇は、大正天皇（1879～1926）の崩御に伴い1926年に天皇に即位された。以来、歴代天皇とそこご家族により別荘として利用されてきた。那須御用邸には、本邸、附属邸のほか、3か所の木造の休憩所（嚶鳴亭、澄空亭および清森亭）がある。

1996年、明仁天皇（在位1989～2019）は、御用邸の広大な森林に生息する動植物の正確な記録を残すよう要望された。栃木県立博物館は1997年から2001年にかけて調査を行い、ブナやミズナラの木々は豊かで多様な生態系を支え、珍しい動植物が数多く生息していることを発見した。

天皇陛下は、自然を将来の世代のために維持しつつ、自然に直接触れ合える場としてこの場所を国民と分かち合うことを望まれた。こうして、約560ヘクタール（御用邸地の半分）が明仁天皇のご即位20周年の記念として2008年に環境省に移管された。この場所は那須平成の森と名付けられ、現在は日光国立公園の一部として維持・保全されている。